

第5回「きのくに学カフォローアップ事業」(2年数学 提案授業)!!

11月28日(月) 3限 2年3組 「数学科」 授業者 山本 翔 先生

国は、本年度中に学習指導要領を改訂し(高等学校は来年度以降)、次年度から周知徹底、教科書検定・採択、先行実施、2020年から順次実施していくことになっています。

次期学習指導要領では、何を学ぶかに加え、主体的・対話的で深い学びの実現というアクティブラーニングの視点が盛り込まれます。

「アクティブ・ラーニング」という言葉をよく耳にしますが、決してグループ内での活発な討議や発表を指すものではありません。①対話的・②主体的で③深い学び、の三つが「アクティブ・ラーニング」の視点なのです。

本校では、このような方向性のもと、授業を『教える』から『学び取らせる』に、生徒の姿を受動的な姿勢から主体的な姿勢に変えるため「学び合いの授業づくり」に取り組んでいます。そして、「学び合いの授業づくり」の実践の確認、授業改善の指導のために、「きのくに学カ定着フォローアップ事業」として本校元校長の丸山雅嗣先生がフォローアップアドバイザーとして教員の授業と生徒達の学ぶ姿を参観に来てくれています。

今回の授業では、授業のはじめには、手を挙げて、「先生、先生」と授業者に教えてもらおうとする生徒が何人もいましたが、授業者が、「わからなかったらグループの人に訊こう」と返すことで、生徒相互の「聴き合える関係」が構築され、「静かな学び」、「対話的・主体的な学び」が展開されていきました。



まずは^{ひと}独りで考えよう



わからなかったら^き訊こう



^き訊かれたら^{こた}応えてね





訊かれたら^{こた}応えてね



訊かれるまでは^{おし}教えない

グループ学習の約束

- ・まずは独りで考えよう
- ・分からなかったら訊こう
- ・訊かれたら応えてね
- ・訊かれるまでは教えない



平成28年7月2日
教育委員会
教育課程部
教育課程課
資料1

学習指導要領改訂の方向性（案）

新しい時代に必要な資質・能力の育成と、学習評価の充実

学びを人生や社会に生かそうとする
学びに向かう力・人間性の育成

生きて働く知識・技能の習得

➔

未知の状況にも対応できる
思考力・判断力・表現力等の育成

何ができるようになるか

よりよい学校教育を通じてよりよい社会を創るという目標を共有し、
社会と連携・協働しながら、未来の創り手となるために必要な資質・能力を育む
「社会に開かれた教育課程」の実現
各学校における「カリキュラム・マネジメント」の実現

何を学ぶか

**新しい時代に必要な資質・能力を踏まえた
教科・科目等の新設や目標・内容の見直し**

小学校の外国語教育の教科化、高校の新科目「公共（仮称）」の新設など
各教科等で育む資質・能力を明確化し、目標や内容を構造的に示す
学習内容の削減は行わない。

どのように学ぶか

主体的・対話的で深い学び（「アクティブ・ラーニング」）の視点からの学習過程の改善

生きて働く知識・技能の習得など、新しい時代に求められる資質・能力を育成
知識の量を増減せず、質の向上・理解を深めるための学習過程の質的改善

深い学び

対話的な学び

主体的な学び

※資料整理については、必ず各教科の指導要領が大学入学者選抜と関係のあることが前提にあり、その上での見直しとするため、重要知識の削減等を行った場合、特定の分野を減らす。

1